

# 人を大切にする経営で「24年問題」をクリア 障がい者雇用でもにす認定も 山下海南子 共同社長

運送事業や食肉加工を手掛け、今年で創業52年を迎える(株)共同(合志市栄)の山下海南子社長は、今年2月1日付で父・山下敏文氏(現会長)の後を継ぎ、社長に就任した。

山下社長は「経営理念『共生社会づくりに貢献し、社員の物心両面の幸せをめざす』の底流には『人を大切にする』思想がある。今後もこれを受け継ぎ、推進していく」と話す。



熊本市出身、1981(昭和56)年2月19日生まれ、42歳。済々黌高校—熊本大学法学部卒。05年入社、16年専務、23年2月1日社長就任。23年3月期の売上高は18億7000万円。今期は20億円を見込む

でも、「取り沙汰される前から当社では時間外労働の問題をクリアしていた」という。物流業界は多重下請け構造で、ドライバーは低賃金・長時間労働であるのが特徴で、同社では「従業員からの脱却とドライバーの地位向上を目指し、従来のチャーター便ではなく、お客さまの荷物を混載して運ぶ『共同配送システム』を構築した」という。



▲同市栄にある第1物流センター

さらに、「時間を減らし、給与は維持する、さらに上げる」という取り組みを全社一丸で実行。17年に「残業時間が長くなる理由の一つに、長く走ることによって残業代を増やそうとするドライバーの心理がある」と分析した敏文現会長が、残業時間75〜95時間のドライバー社員に対し95時間分の残業代を払う仕組みを整

備。この仕組みを山下社長は継続し、現在は約20時間の削減に成功、残業時間60時間台を目指しているという。

山下社長は「これから

## 障がい者雇用からダイバーシティ経営へ

一方、山下社長は「障がい者雇用がダイバーシティ経営の素地をつくっている」と話し、障がい者雇用にも積極的に取り組む。現在は36人が在籍しており、21年には厚生労働省が障がい者雇用を促進する企業を認定する「もにす認定」を県内で初めて受けた。

同社では障がいのある人が各部署に配属され、健康者と共に働いており、「共に混じり合い、学び合うことで、共に成長する風土ができています」という。「障がいのある人にとって働きやすい職場は、すべての人にとっても働きやすい職場である」との考えをもとに、

ますます労働人口が減る中で、働きやすく待遇も良い環境をつくり、お客さまも求職者も集まる『光る』会社になっていくことが大切」と話す。

「寄り添い、仕組みを工夫し、改善することによってミスが減り、生産性が高まっているという。

山下社長は「この共に働き、学び合う真髓は、これからの多様な人と働くダイバーシティ経営の素地となっている。さまざまな背景をもつ社員が自分の個性を生かして自分らしく生きていけるような会社にしていききたい」と話す。

## 「女性のまま」経営者に

これからの女性経営者にとって、「女性のまま」経営者になることが大切」と考える山下社長。「これまでは男性社会で、女性が男性と同じように

男性的に働く必要があった。リーダーシップのあり方もそのひとつ。3人の子どもを育てながら働く母親として『女性のまま』社長をする私の経験は、会社の働きやすい環境づくりが大いに役立つ」と話す。

同社は女性社員が約3割を占めることから、時短勤務や子ども手当の拡充、育休からの復帰に取り組み、今後もさらなる制度を整備する予定。また、女性管理職の登用も意欲的に行っており、部長職1人、課長職2人、係長職1人が女性という。

加えて、山下社長は「ライフステージが変化していく女性だけではなく、さまざまな背景、特性を持つ人にとって働きやすい環境を整えることが大事。そのためにも、多様な人が違う考え方を持つ中で、『受け入れ、認め合い、共に乗り越える力』が必要」と力を込め、「人の成長が会社の成長。働く人々にとって、大切な自分の人生を過

ごす会社で成長してもらい、会社とともに成長していきたい」と話した。



▲入社3年目で物流事業本部営業課システム係の主任を務める女性社員